

## 平成27年度 第1回宝塚市総合教育会議

- 1 日時 平成27年4月22日（水）午後1時～午後3時
- 2 場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 （構成員）中川市長、小野教育委員長、井上教育委員、川名教育委員、種谷教育委員、井上教育長  
（事務局）副市長、企画経営部長、管理部長、政策室長、管理室長、政策推進課長、教育企画課長、政策推進課係長、教育企画課係長

### 4 内容

#### ■開会

#### ■中川市長あいさつ

このたび、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、市長に総合教育会議の設置及び教育に関する大綱の策定が義務づけられました。

教育総合会議は、市長と教育委員会が意見交換を行うことで、教育行政の課題等を共有して、お互いが連携した教育行政を推進することを目的としており、教育行政の大綱の策定や学校施設の整備に関する施策や子どもたちの安全が脅かされるような場合などについて、協議・調整することとなっています。

本市では、以前より教育委員の皆様と情報・意見交換を行い、良好な関係を築き、子どもたちの学びを応援する環境づくりや子どもたちの幸せを何より優先する取り組みを進めてきました。

総合教育会議においても、これまでと同様に教育の政治的中立、継続・安定性を確保しつつ、教育委員会との連携を図り、宝塚市の将来を担う子どもたちが健やかに成長していけるよう、教育環境を整えていきたいと考えていますので、有益な協議、調整の場となるよう、活発な情報や意見交換をお願いします。

#### ■出席者紹介

#### ■議事

##### 議題1（1）総合教育会議について

##### （2）宝塚市総合教育会議運営要綱の制定について

（資料1、資料2に基づいて、事務局より説明）

- 小野教育委員長 会議の招集に関して、法律では教育委員会も必要であれば招集を求めることができるとありますが、なぜ、要綱第2条に記載していないのですか。
- 事務局 法律で規定されていることは要綱で書く必要はなく、あえて要綱に書くと、法律以上のことを要綱で定めることができると読み取られる場合があります。
- 小野教育委員長 要綱第5条の公開・非公開の決定については、出席している構

成員ということですね。

また、会議の頻度についてはどんなお考えですか。

○事務局 基本的には緊急時を除いて年に3回～4回と考えています。初年度は大綱の策定があります。通年では、市長の所管する予算編成の権限や条例の制定権などに関する事項の協議の場として1回、教育の環境整備等の実施状況について1回、他に教育行政の中での課題事項や子ども未来部などと連携する事項などの協議が1回～2回と考えています。

○小野教育委員長 議事録を公表とありますが、どのぐらいの目処になりますか。

○事務局 録音内容を議事録として起こしたものを要旨という形でまとめます。それを構成員に確認いただいた後、ホームページに掲載します。できるだけ速やかに公開するように努力します。

○井上委員 校区変更については、この議題になじまないものなのでしょうか。

○事務局 子ども達の教育環境整備という意味で、なじまないものではないと考えています。

○井上委員 災害時に学校が避難所になった場合は、教育委員会を実施後、総合教育会議で事後承認となるのでしょうか。

○事務局 国の通知では、緊急時は市長と教育長のみでも会議を開くことができるという解釈ができます。ただし、その前提として、教育委員会で方向性が確認されている場合、もしくは教育長に一任されている場合という条件があります。教育長と市長で会議しても、教育長が持ち帰って教育委員会に諮ると判断する場合、また教育委員会で意思決定される項目もあります。緊急時の対応は状況に応じた柔軟な対応も必要と考えています。

○川名委員 資料1の協議・調整事項の例の1番目について、ある学校の体育館の建てかえが必要かどうかのような個別具体的なことは議題にすると切りがないです。議題としての何か基準はありますか。また、どう扱っていくのですか。

○事務局 個々の学校施設の建て替えのような項目を、単独で1つの議題にするのではなく、市全体の大きな課題を議題とすべきと考えています。また、政治的中立性に及ぶような教科書問題や人事などは、議題にすべきではないと考えています。

○川名委員 個別の学校施設などについては、これまでどおり教育委員会で決めるということですね。

○事務局 総合教育会議での協議事項はお互いに尊重することになります

が、予算を含めた個別具体的な決定は、この会議ではなじまないと考えています。

○井上委員 資料1の協議・調整事項の例として、通学路での交通事故死が発生した後の再発防止とありますが、事前に対策するほうが予防的な措置を講じられると思います。

○事務局 被害が生じ、または生ずるおそれがあると見込まれる事項として該当します。そういった危険な場所も含めて、この会議で情報をお互いに共有して、取り組んでいくと考えています。

○司会 では、当会議の運用要綱は、この内容で決定してもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○司会 これからの会議の進行については、要綱第4条の規定に基づき、中川市長に進行をお願いします。

○中川市長 それでは、私が進めさせていただきます。

#### 議題1 (3) 宝塚市総合教育会議傍聴要領

(資料3に基づいて、事務局より説明)

○井上委員 第6条について、傍聴人に対する確認をどのような形で行いますか。

○事務局 傍聴人には、会議前に注意事項を配布しています。

○川名委員 開催案内や傍聴のルールについて、ホームページ等で周知していますか。

○事務局 第1回会議については、開催の約1週間前にホームページで掲載し、傍聴要綱の承認までは非公開と断ったうえで、傍聴可能としています。

○中川市長 では、この内容で基本的に決定してよろしいでしょうか。

また、第3条の傍聴の定員は、会議室の規模によって決定することになります。基本的に特別会議室で行いますので、傍聴の定員については15人が適当と思いますが、いかがでしょうか。

○川名委員 基本はできるだけオープンがよいと思います。

○小野教育委員長 他市では10人という事例もありますので、15人ぐらいが適当ではないですか。

○種谷委員 15人を超えるときは席をふやしたらよいのでは。

○事務局 15人以上になっても席は用意できます。傍聴人数をお知らせして、1人でも多くという同意が得られるのであれば、状況に応じて決めることもできます。

○中川市長                   では、柔軟に対応していきますが、基本15人としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○中川市長                   本日の傍聴は、いらっしゃいますか。

○事務局                    1名いらっしゃいます。

○中川市長                   傍聴の方、お入りください。

## 議題2 大綱の策定

（資料4に基づいて、事務局より説明）

○小野教育委員長       今年度、教育振興基本計画の後期計画を見直します。教育振興基本計画をみなすことで大綱をつくる必要はないのであれば、当面は今の基本計画を大綱とみなし、基本計画の見直し作業として適宜議論していくのはいかがですか。

○川名委員               今の教育振興基本計画は、あまりにも様々なことが細かく盛り込まれているので、なかなか浸透しないような気がします。大綱は、「宝塚の教育はこういうものを目指す」のような、もっとシンプルなわかりやすいものにできませんか。

○小野教育委員長       今の基本計画は49施策あります。不要な施策はないですが、肝心なものは何であるのか極めてわかりにくいと思います。

後期計画と大綱の策定作業が2つに分かれるおそれがありますので、後期計画を見直す中で、特に重点的に取り組む点を明確にしたいと思っています。

○事務局                大綱としては、方針の部分が中心で詳細の部分を定めるものではないことから、教育振興基本計画の49施策は、大綱から外れると考えています。

教育振興基本計画の第3章、第4章の目標や方向性、また、第5次総合計画基本構想が大きな方針として大綱に当たるのではと考えています。

後期計画の見直し部分がどこになるのかがポイントになると思います。

○川名委員               これらを参考にして大綱のたたき台みたいなものを、新たに事務局で作業されるということですか。その場合、目処はいつごろになりますか。

○事務局                仮に、教育振興基本計画を大綱にみなしても、新たな形で作るものと考えています。今回の意見を整理したうえで、次回にたたき台としてお示しする予定です。

- 井上教育長 教育振興基本計画や総合計画もあるうえで、短期間で新たに定めるのは簡単ではないため、見直すまでの間は、教育振興基本計画の「今後5年間において取り組む基本方針」の15項目が大綱でよいと思っています。項目が過剰かどうかは今後検討していくことでいかがですか。
- 小野教育委員長 教育長に賛成です。基本計画は、新たに加えないといけないものがあるかもしれませんが、項目が網羅されています。
- あと、川名委員がおっしゃったように、何が重点なのかについて、もう少しわかりやすいもので議論する必要があります。今、大綱を別途つくるとするのは極めて大変ですので、当面基本計画を大綱とするのが合理的だと思います。
- 中川市長 今の基本計画に手を入れるところはないと思います。また、大綱としてはシンプルでわかりやすいほうがよいと思います。他の委員はいかがですか。
- 井上委員 一応全て網羅されているので、これでよいと思います。
- 種谷委員 基本計画の見直しを今年度行うわけですから、とりあえずは今の15の基本方針がそのまま大綱でよいと思います。
- 中川市長 それでは、この意見を踏まえて事務局で大綱について整理し、次回の協議のときにお示しするというところで、進めさせていただいてよろしいでしょうか。
- (「異議なし」の声あり)

### 議題3 宝塚市の教育について

- 中川市長 せっかくの機会ですので、宝塚市の教育をさらによくするために、意見交換の時間を少し取らせていただきます。
- 小野教育委員長 基本計画概要版の15項目の左上に「学校園、教職員の教育力を高める」、また、右側に「市民全体で子どもを応援する」とあります。持論ですが、教育の原点は学校、学校の原点はクラスです。そのクラスを活性化させるために、教師の教育力をいかに上げるかが極めて大切です。
- そのために、学校の中で教師がお互いにクラスを評価し合うなどの研修や、世界一忙しいと言われている日本の教師が、もう少し授業に集中できるような環境づくりができないかと思います。
- もう1つは、保護者の対応で学校が大変苦勞している事例があります。学校を応援するような地域だと、保護者のクレームが相談事になるなどと言われています。

文部科学省ではコミュニティスクールを一生懸命広げようとしています。このコミュニティスクールは、宝塚市ではすぐには難しいかもしれませんが、まずは今ある学校応援団などを活性化することが必要だと思います。

○川名委員

宝塚市は特別支援教育に力を入れていますが、発達障害の子どもについて、全ての教師が共有し、理解が深まるように、教師全員への研修をしていただけないかと思います。

また、読書活動に力を入れると学力向上にもつながります。全ての学力や生きていく力など、本から得ることはとても多いです。大学生が3カ月間1冊も本を読まないということがあってはいけないと思います。本を読む習慣を、学校の中でつけてほしいです。宝塚市は司書の数も多いので、自ら出かけてアウトリーチもしてほしいという思いがあります。

○井上委員

各学校とも「あいさつ運動」として、挨拶を徹底していますが、学校の外では挨拶ができないという子ども達が多過ぎます。

また、グラウンドを何周走ったなどという形で「走れ走れ運動」をつくって、子ども達の体力向上を促してほしいです。

○種谷委員

校区について、教育委員会でも検討が始まっています。過大校と過少校がありますが、頑張ってみ当をつけていかなければいけないと思っています。

また、幼児教育は、幼稚園だけでなく保育所もありますが、縦割りでなかなか事が進んでいきません。今後、幼児教育をどう進めていくのか、議論や意見交換を行っていければと思っています。

○井上教育長

市民全体で子どもの学びを応援する環境体制を整えることは、宝塚市の教育目標を実現するために必要なことです。バランスもあります。教育への投資が未来への投資だと考え、社会全体で教育へ投資してほしいです。今、幼稚園から大学まで公立で1,300万円、高校・大学が私立だと1,800万円、ずっと私立であればもっと必要です。教育にお金がかかるから、子どもを育てられないと言われます。地方創生と言われていますが、宝塚市は子育て環境の充実として、特に教育に力を入れてほしいです。

教育長として、子ども達の幸せを考えて教育環境の整備に力を入れており、市長部局から予算を対応してもらいました。

施設については、耐震化とエレベーターの整備が完了します。グラウンド整備、老朽化更新、トイレ整備も大きく進み、空調工事についても、昨年度1校実施し、今年度も1校実施予定です。

人の充実についても、小学校の学校警備の実施と校務支援ソフトの稼働で、教師の校務を減らして、子どもと向き合う時間を増やすことができます。また、スクールソーシャルワーカー5名は兵庫県下でも多いです。言語聴覚士と作業療法士の採用と、養護学校に正規看護師、学校教育課にパート看護師の採用など充実していただいています。これは非常にありがたいと思っています。

一方、介助員が、平成24年度77名、平成25年度87名、平成26年度99名、平成27年度104名と年々必要になってきています。また、医療的ケアの必要な児童が特別養護学校ではなく近くの小学校を希望すると、看護師が必要になります。予算対応をお願いします。

○中川市長

小野委員長の教育力を高めることは、非常に重要だと思います。今後も一生懸命に皆様と取り組んでいきたいと思っています。

川名委員の発達障害の課題は深刻になってきています。最初の段階でどう向き合うかで、その後が大いに変わってくると思います。相談体制と教師の理解が必要です。読書力については、もう一步踏み込んだ読む力をつけていくために、教師への研修と、それを子ども達にきっちりと教えていくことが非常に大事だと思いますので、前向きに取り組んでいきます。

井上委員の挨拶、体力は基本です。私も市役所で一生懸命、挨拶、挨拶と言っています。

種谷委員の校区は課題中の課題で、議会でもかなり指摘を受けていますし、今後の子どもの数を見据えてやっていかなければいけない。時間がかかる問題ですので、取り組んでいきたいと思っています。そして、幼稚園と保育所、縦割りではなかなかうまくいかなかった部分ですので、一緒にやっていきたいと思っています。

予算に関しては、限られた相変わらず厳しい財政状況の中でのなりますが、やはり教育は大事ですので、皆様と力を合わせてやっていきたいと思っています。

以上、いろいろ御意見をいただきました。これからこのような形で会議が開かれます。教育がもっとよくなるための場になると実感いたしました。

それでは、これをもって会議を終了いたします。

皆様、大変ありがとうございました。